

JSQC ニュース

発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス JISマーク表示制度の現状と課題
- 2-私の提言 諏訪のものづくりの文脈と教育特区に学ぶ
- 2-ルポルタージュ 第372回中部事業所見学会ルポ
- 3-QMS有効活用及び審査研究会第43期活動状況/12月の入会者紹介/事務局からのお知らせ
- 4-行事案内

JISマーク表示制度の現状と課題

経済産業省産業技術環境局基準認証ユニット JISマーク認証業務室 室長補佐 佐野 浩一

JISマーク表示制度は、昭和24年の工業標準化法制定以来、60年以上の歴史をもち、我が国の鉱工業製品の品質向上に多大な貢献を果たしてきました。国の規制改革等に伴う民間活力の一層の活用とグローバル化の進展に伴う適合性評価制度の国際統合化といった観点から、JISマークのデザインを含む抜本的な制度改正が行われ、平成17年10月1日よりJISマーク表示制度が生まれ変わり、3年の旧JISマーク表示制度の経過措置が終了して5年が経過しました。現行JISマーク表示制度も総認証件数が9000件弱の安定した水準で推移しており（図1参照）、国内外で幅広く活用されています。今後ともJISマーク制度を我が国の製品認証制度の重要な柱として維持、発展させていくためにはその信頼性確保と普及が重要です。

信頼性確保のためには、JISマーク認証事業者自身の品質管理体制の維持・向上への取り組みはもちろんですが、これを認証する登録認証機関の審査業務等が適確・厳密に実施され表示違反等が生じないよう管理・監督する

ことが大切です（図2参照）。

普及面については、主に事業者を対象としてJISマーク制度のあらましや制度運営の現状を理解していただくため全国11箇所で開催し、また、一般の方を対象に子ども霞が関見学デーで

JISマークの紹介をしています。さらに、国の調達基準へのJISマーク活用を促進する観点からグリーン購入法の調達基準へのJIS活用を精力的に働きかけるなどの取り組みを実施しているところです（JISを活用している品目は全267品目中76品目（活用率28%）、公共工事分野での活用率は相対的に高い（36%）。図3参照）。今後は、最新のJIS整備状況を踏まえつつ調達基準へのJIS活用の可能性を検証し、JISの活用が適当と判断された場合には、具体的な基準改定案を作成して提案を行うなど引き続き取り組みたいと考えています。

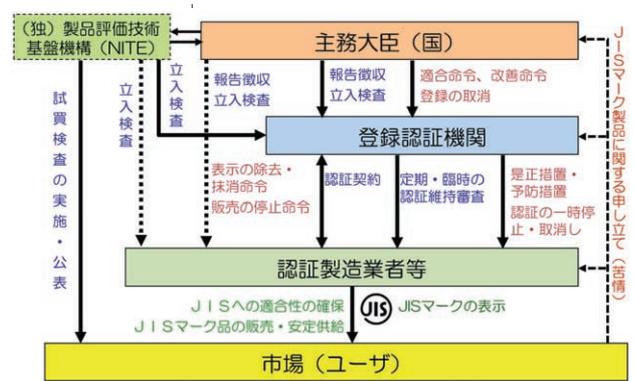


図2 制度の信頼性の確保の仕組み

基準認証政策全体の動きについては、我が国産業競争力強化の観点から、我が国製造業に強みがある高機能材料や製品などの分野で、高機能化JISの整備に向けて取り組みが進められているところです。今後、建築免震用積層ゴム、コンクリート混合用高機能繊維などの各種高機能材料、高品質LED照明などが検討され整備される予定です。JISマーク制度についても、こうした新たなJIS整備の成果が適確に市場で展開されるようユーザーにわかりやすく伝える表示方法などの検討も含め制度運営に努めてまいりたいと考えています。

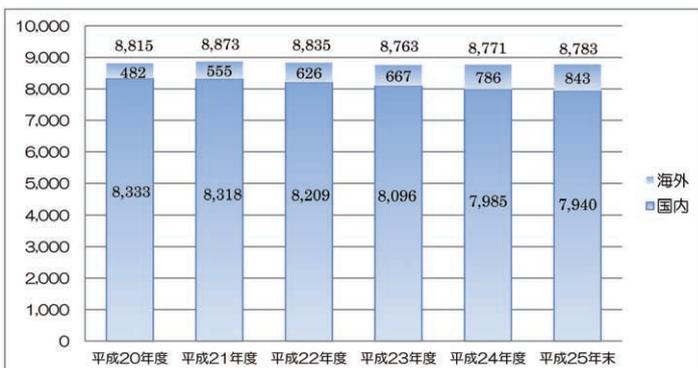


図1 認証契約件数の推移

- 公共工事分野でのJIS活用率が相対的に高い(36%)。
- 平成25年度の基準改定により、以下のとおりJISの活用範囲が拡大。
 - ・基準適合JISは、17規格から26規格に
 - ・評価方法JISは、42規格から46規格に
 - ・適合証明としてJISマークを活用できる品目は、11品目から19品目に



図3 グリーン購入法特定調達基準におけるJISの活用状況

● 私の提言 ●

諏訪のものづくりの文脈と教育特区に学ぶ

諏訪東京理科大学 経営情報学部 奥原 正夫



私が勤めます諏訪東京理科大学は茅野市にあります。諏訪は岡谷市、諏訪市、下諏訪町が諏訪湖を囲むように、

八ヶ岳西麓には茅野市、富士見町、原村が広がる人口20万人程度の圏域です。八ヶ岳西麓は旧石器時代から縄文時代にかけてのものづくりが盛んで人口も相当数居たようです。これは八ヶ岳や霧ヶ峰周辺で産出された黒曜石が非常に良質であり、東日本内で流通し生活が潤っていたことによるもので、遠くは三内丸山遺跡から霧ヶ峰産の黒曜石を使った石器が出土しているとのこ

とです。

時代が下がって、江戸時代から生糸の製造が行われていましたが、明治に入ると殖産興業としての製糸業が盛んになり、官営の富岡製糸場に負けじと岡谷の製糸家が洋式器械製糸技術を導入し諏訪湖周辺に製糸工場を広げ、昭和初期の全盛期には生糸の全国生産量の25%を占め、外貨の半分を獲得していたようです。人絹の普及や第二次世界大戦によって製糸業は規模が縮小してしまいましたが、大戦中に多くの工場が諏訪湖周辺に疎開し、終戦後も多くの疎開工場が残って精密工業の礎となり、諏訪は東洋のスイスと呼ばれる精密工業の一大集積地となりました。

諏訪市では、平成15年から地域密着型キャリア教育としてもものづくり教育

を進めています。20年度には教育特区を受け、「相手意識に立つものづくり科」を正式な授業科目として市内全小中学校に導入しています。この教科は、お客様の立場に立ったものづくりの気持ちを基礎として、商品開発の実際や、協力会社での見学や実習を通してものづくりへの興味や関心を高め、基本的な技能習得も狙いとしています。さらには「相手意識に立つ」ことで人を大切にすることや、ものづくりの歴史を学ぶことによる郷土を愛する心の醸成も狙いとしています。

これからの日本の製造業が抱える大きな問題として少子高齢化に伴う生産人口の減少が考えられます。これに対応するためか、政府は技能労働者を受け入れる外国人技能実習制度の滞在期間を延長する考えを持っているようですが、重要なのは労働力の量ではなく、質ではないかと考えます。諏訪の取組のように早い時期から「ものづくり」の意義や文化を教えることが時間ばかりかかりますが質の高い労働力の用意につながるのではないのでしょうか。

第372回中部 事業所見学会 ルポ

中日本高速道路 新東名高速道路建設現場

さる2月21日愛知県内で建設中の新東名高速道路建設現場にて第372回（中部支部94回）事業所見学会が開催され23名の方が参加された。NEXCO中日本は2005年10月の民営化に伴い設立され、東名高速道路、中央自動車道をはじめとする中日本地域の高速道路や自動車専用道路の施設管理運営を業務としている。一昨年の笹子トンネル事故を契機に安全性の向上に対する取り組みを実施し、現在、安全性向上3ヵ年計画等の具体策に取り組んでいる最中である。

新東名の愛知県区間55.2kmは、2014年度末の完成を予定し、東名高速道路の混雑解消やダブルネットワーク等による様々なメリットが期待されている。

工事現場見学は愛知県岡崎から豊田の区間をマイクロバスで移動しながらの見学となった。竣工後は、まず実際のトンネルや橋を先に作り、将来本線道路となる道を

使用して土砂を運搬することで一般道を経由しなくて済む様にしているとの解説があった。実際にサービスエリアの工事現場では、一般公道の走行出来ない40トンダンプが行きかい、トンネルや山を削って出た土砂を利用して谷を埋めていた。一般道からの見学では、ダンプトラックを管理するためのGPSを使用した緻密な位置精度管理、橋梁では鋼板を使用して橋を30%軽量化した技術、アラミド繊維のネットを用いたコンクリートの剥離落下防止策などの新しい工法について実際の構造物を見ながらの解説があった。環境対応については、工事による泥水防止のため竹ソダ方式の沈砂池で水の浄化をしているなどきめ細かい対策の説明があった。また地域植物のDNA保存を考慮した植樹や、生物では虫などの保護はもちろんミミズ、蛇、鳥などさまざまな生態系に気を配っているとの説明に参加者は驚いていた。

今年の歴史的な大雪の影響で予定していた本線を走行しての見学が出来ず主に一般道からの見学となったが、分かりやすい解説と高い技術に大変興味深い見学会となった。最後になりますが、ご対応いただいたNEXCO中日本の皆様に深く感謝申し上げます。

中村 和広（ヤマハ発動機株）

QMS有効活用及び審査研究部会43期活動状況

部会長 福丸 典芳

1. ワーキンググループ（以下WGと称す）の活動状況

①WG1：組織の視点から改正ISO9001についての研究

ISO9001CDを組織の視点で事例をもとに研究しており、特に箇条4、6を中心に検討している。事業プロセスの統合では、経営計画、方針、目標、運用に関してプロセスの目的、プロセスの流れとして分かるようにする方向で検討している。

②WG2：改正ISO9001の意図及び審査員の力量の研究

ISO9001CDの意図を分析し、完了している。また、ISO17021-3に対応してCDに必要な審査員の知識を明確にした。今後規格改正の進捗状況に応じて検討した内容のレビューを行う予定である。

③WG3：ビジネスプロセスにおけるQMSの位置付け—持続的成功型 新QMS—

企業と共同研究を行い、ISO9001の序文や品質マネジメントの原則が重要であるとの説明で、組織のマネジメントシステムは唯一であることが社員に理解され、ISO9001が組織の活性化ツールとなることが分かった。2015年3月までに“新QMS”を提案する予定である。

④WG4：会社を強くする「自己適合宣言」の研究—形骸化ISOから、儲けるISOへの革新

自己認証に必要なチェックリストを検討し、トライ

アル企業で実施する予定である。4月から試行し、次年度2015年版に結実させて研究報告書を発行予定である。

⑤WG5：次世代対応の第三者監査技法の研究—第三者監査のガイドライン

昨年標準委員会に規格化の提案を行った。委員のコメントに対して検討を行い、研究会メンバーの業種を考慮して10名程度に増やし再提案する予定である。

⑥WG6：中小企業経営者が使いたくなるISO9001推進の研究—QMS運営管理のためのガイドライン—

これまでの研究成果をまとめ、7月に報告書を作成する予定である。また、出版についても検討予定である。

⑦WG7：ISO規格とTQMの融合による組織の目的・目標達成能力向上支援のための審査技術の開発

有効性の高いマネジメントシステムに向上させる審査のための「審査技術基本ガイドブック」を2014年2月に研究報告書として発行した。今後はさらに確実に有効性を高めるための着眼点について研究予定である。

2. 研究報告

WGの完了時期に相違があることと規格の改正作業時期との関係があるので、11月に行われる年次大会で研究報告を行う予定である。

2013年12月の 入会者紹介

2013年12月19日の理事会において、下記の通り正会員22名、職域会員4名、賛助会員1社1口の入会が承認されました。

.....
(正会員22名) ○半澤 さゆり (プラ

イムアースEVエネルギー) ○岡田 育子 (橘会) ○千代 康裕 (中越合金鋳工) ○山屋 祐一 (日本科学技術連盟) ○若狭 正尚 (IDECロジスティクスサービス) ○草野 輝幸 (サクラテック) ○小池 美智男 (セイコーエプソン) ○春川 澄良 (山田紙器) ○河野重春 (日本デジタル研究所) ○藤本貴之 (オムロンソーシアルソリューションズ)

○ヨンズ) ○土屋 恵司 (矢崎総業) ○渡邊 華美 ○萩原 優子 (資生堂) ○打矢 隆司 (筑波総合研究所) ○宇佐美 元弘 ○田中 伸周 (カネタ) ○時岡 正宏 (DXアンテナ) ○篠崎 慶太 (三菱重工業) ○田中 拓男 (日本電熱) ○三浦 昭一 (トヨタ車体) ○鷺谷 和彦 (寿精版印刷) ○林 学 (三菱化学)

.....
(職域会員4名) ○中井 慎吾 (ブラザー工業) ○奥山 一郎 (トヨタ車体) ○木村 博人・綿民 誠 (ジェイテクト)

.....
(賛助会員1社1口) ○千寿製薬

.....
正 会 員：2212名

準 会 員：81名

職域会員：17名

賛助会員：158社207口

公共会員：20口

事務局からのお知らせ

日本品質管理学会監修「JSQC選書22、23」好評発売中

●JSQC選書22 (161ページ、定価：1,600円 税別)

書名：安全文化—その本質と実践—

著者：倉田 聡

●JSQC選書23 (184ページ、定価：1,700円 税別)

書名：会社を育て人を育てる品質経営—先進、信頼、総智・総力—

著者：深谷 紘一

判 型 等：四六判、並製本

学会員特典価格：定価の20%割引

申込方法：http://www.jsqc.org/ja/kanren/jsqc_sensyo.html

※書籍は請求書を同封して日本規格協会から発送いたします。

行事案内

●第88回クオリティトーク (本部)

テーマ：「誤S」から「真の5S」へ
～QC的5Sの考え方、進め方
ゲスト：町田勝利氏
(KQM：神奈川品質経営研究所)
日時：2014年5月21日(水)18：00～20：30
会場：日本科学技術連盟
東高円寺ビル5階研修室
定員：30名
参加費：会員3,500円 非会員4,500円
準会員・一般学生2,500円
(含軽食・当日払い)
詳細：ホームページをご覧ください。
申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAX
にてお申し込みください。

●第104回研究発表会 (本部)

日時：2014年5月31日(土)
6月1日(日)
会場：日本科学技術連盟
東高円寺ビル
プログラム：
・5月31日(土)
10：05～11：05
チュートリアルセッションA
「統計的データ解析で解くトリック
ーアンスコムの数値例が語ることー」
廣野元久氏 (リコー)
11：10～12：10
チュートリアルセッションB
「株アドヴィックスの経営革新を支
えたTQM活動」
酒井和憲氏 (アドヴィックス)
13：00～13：30 ポスターセッション
13：30～17：50 研究発表会
18：00～19：30 懇親会
・6月1日(日)
10：00～14：30 研究発表会
参加費：(懇親会以外の当日払は別金額)
チュートリアルセッション・研究発表会
会員 6,480円 (締切後 7,020円)
非会員12,960円 (締切後14,040円)
準会員 3,240円・一般学生4,320円
研究発表会のみ (1日参加/2日参加とも)
会員 4,320円 (締切後 4,860円)
非会員 8,640円 (締切後 9,720円)
準会員 2,160円・一般学生3,240円
懇親会
会員・非会員 4,500円
準会員・一般学生2,500円
申込締切：2014年5月21日(水)
申込方法：
ホームページからお申し込みできます。
www.jsqc.org/q/news/events-list.html

●第375回事業所見学会 (関西)

テーマ：お客様の要求品質に応えるつ
ばきの「モノづくり力」
日時：2014年6月6日(金)13：30～16：15

見学先：椿本チエイン 京田辺工場
定員：30名
※同業他社のお申し込みはご
遠慮ください。

参加費：会員2,500円 非会員3,500円
準会員1,500円一般学生2,000円
※当日払い

申込方法：
4月送付の参加申込書にご記入の上、関
西支部事務局までお申し込みください。

●第120回講演会 (関西)

テーマ：グローバル市場での人材育成
と品質保証実践例
日時：2014年6月13日(金)13：30～17：10
会場：中央電気倶楽部 5階ホール
プログラム：

講演①：「シャープにおけるグロー
バル人材育成」
岡崎哲卓氏 (シャープ)
講演②：「グローバル化における品質
保証と人材育成のあり方
～Honda二輪車での事例紹介～」
向井正人氏 (本田技研工業)

参加費：会員4,000円 非会員5,000円
準会員2,000円一般学生2,500円
※当日払い

申込方法：
4月送付の参加申込書にご記入の上、関
西支部事務局までお申し込みください。

●第373回事業所見学会 (本部)

テーマ：小澤酒造の品質経営一人間性尊
重の経営と企業存続の秘訣一
日時：2014年6月25日(水)13：30～16：35
見学先：小澤酒造(株)
定員：35名

参加費：会員3,000円 非会員 4,000円
準会員2,000円 一般学生2,500円
※当日払い

申込締切：6月11日(水)
申込方法：本部事務局までE-mailまたは
FAXにてお申し込みください。

●第151回シンポジウム (中部)

テーマ：顧客満足のための新たな時代
の新たな商品・サービスとは
～新たな顧客価値を提供し続
ける組織の実現のために～

日時：2014年7月11日(金)13：00～17：00
会場：刈谷市総合文化センター
「アイリス」1階小ホール

プログラム：
基調講演「人が輝く組織の実現」(仮題)
大久保寛司氏 (人と経営研究所)
事例講演「社員がイキイキ・ワクワク
働く歯科医院の現場から」
新谷順子氏
(ヨリタ歯科クリニック)

意見交換 司会：大久保寛司氏
参加費：会 員4,320円 非会員5,400円
準会員2,160円一般学生2,700円
申込方法：中部支部事務局までE-mailまた
はFAXにてお申し込みください。

●2014年度 第30回FMESシンポジウム

テーマ：顧客満足のための新たな時代の新
ビッグデータ活用と価値創造
日時：2014年7月11日(金)13：00～17：05
会場：日科技連 千駄ヶ谷本部ビル
1号館3階講堂

定員：150名
プログラム：
講演1：丸山 宏氏 (統計数理研究所)
講演2：吉野 睦氏 (デンソー)
講演3：中川慶一郎氏
(NTTデータ数理システム)

講演4：森 正弥氏 (楽天)
資料代：4,000円 (学生1,000円)
詳細：ホームページをご覧ください。
www.jsqc.org/fmes/events/140711.html

●第153回シンポジウム (関西)

テーマ：設計開発の質向上 (固有技術の展
開・未然防止の進め方) (仮題)
日時：2014年7月30日(水)
13：00～17：30 (予定)
会場：中央電気倶楽部 5階ホール
詳細：追ってご連絡します。

●第105回研究発表会 (中部) 発表募集

日時：2014年8月27日(水)
会場：名古屋工業大学
申込締切：
発表申込締切：5月30日(金)
予稿原稿締切：7月18日(金)必着
参加申込締切：8月20日(水)
申込方法：
中部支部事務局までE-mailまたはFAX
にてお申し込みください。
詳細：ホームページをご覧ください。

●第106回研究発表会 (関西) 発表募集

日時：2014年9月12日(金)
会場：大阪大学中之島センター
申込締切：
発表申込締切：7月25日(金)
予稿原稿締切：8月27日(水)必着
申込方法：
4月送付の参加申込書にご記入の上、関
西支部事務局までお申し込みください。
詳細：ホームページをご覧ください。

行事申込先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本部：apply@jsqc.org

中部支部：nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：kansai@jsqc.org